

祐介の目

No.108



大田祐介 (福山市議会議員)

戦後75年の夏に思う

今年の東京オリンピックは延期になったが、戦後復興の象徴とも言えた前回の東京五輪で最も日本人の記憶に残った競技は男子マラソンだろう。優勝は世界新記録で連覇したエチオピアのアベベ。3位は惜しくも競技場に入ってからイギリスのヒートリーに抜かれた日本の円谷幸吉だった。それでも、メイン会場の国立競技場に日の丸を翻させたのは円谷唯一人であり、開催国日本の面目を保ったのだ。

その円谷が4年後のメキシコ五輪前に自殺。「父上様、母上様、幸吉はもうすつかり疲れ切ってしまったて走れません。何卒お許しください。」という有名な遺書を残し、その純粋な精神性に多くの方が感動すると同時に不憫に感じた。次回は金メダルという重圧や故障、失恋等、諸説あるが何より生真面目だったのだろう。

さて、最近の衝撃的自殺は俳優の三浦春馬だろう。8月

と、卓越した飛行技術を持ちながら敵機と遭遇すると、逃げてばかりいたという。健太郎は宮部が、妻と娘に必ず生きて帰ると約束を交わしていたことを知る。

終戦間際、宮部は特攻隊の指導教官となったが、出撃すれば必ず死ぬという特攻に対して忸怩たる思いを持ちつつ、最後には自らが出撃した。ネタバレになるのでその理由は記さないが、「生きることを諦めるな」と説いた祖父の生き様に感化される役を演じた。戦時中の若者の想いに心を寄せた彼が自殺したことはとても残念である。順風満帆な笑顔に見えても人知れぬ悩みがあったのだろう。

実は私も最近親しい友人が自殺した。彼は趣味を謳歌し、借金もなく、彼女もいた。しかし、その予兆に気付けなかったことが残念でならない。戦後75年という節目の年、彼の後片付けを手伝いながら例年以上に命について考えさせられる夏であった。